

V その他

福井県衛生環境研究センター調査研究報告等投稿規程

1. 調査研究報告等の種類

- (1) 総説：衛生、環境に関する調査研究の総括、問題点、展望等。
- (2) 調査研究：独創性があり、新知見を含むもの。
- (3) ノート：断片的な研究であっても新しい事実や価値のあるもの。
- (4) 資料：有意義なあるいは利用価値のある試験結果、統計等に知見を加えたもの、あるいは記録として残す必要のあるもの。
- (5) 抄録：所外誌に掲載された論文および学会発表等の抄録等。

2. 構成

- (1) 原稿第1ページ左上欄外に種類を記す。
- (2) 総説の形式は自由とする。
- (3) 調査研究は原則として、表題、著者名、要約、はじめに、方法(実験方法または調査方法等)、結果および考察、まとめ、謝辞、参考文献の順に記載し、通し番号を付けて記述する。なお、結果および考察は、結果と考察に分けて記載してもよい。
- (4) ノート、資料は調査研究に準ずるが要約は省略する。
- (5) 抄録は表題、著者名または発表者名、掲載誌名または学会名および本文等より構成し、図表を含めてA4半ページ以内とする。

3. 表題

- (1) 2行以上の表題は原則として逆三角形とする。
- (2) サブタイトルは、行をかえ、前後にハイフンをつける。
- (3) シリーズの表題は表題の後に(第1報)、(第2報)とする。
- (4) 著者名は表題の中央下に記す(2名以上の場合、著者名を「・」で区切る)。
- (5) 当センター以外の所属の著者名には右肩に*印をつけ、第1ページの脚注にその所属を記し、*1、*2、*3・・・の順に列記する。
- (6) 調査研究報告等(抄録を除く)には必ず英文表題(名詞、代名詞、形容詞の頭文字は大文字)およびローマ字の著者名(フルネーム、姓は全部大文字、名は頭文字のみ大文字)を第1ページの著者名の下に記す(2名以上の場合、著者名を「,」で区切る)。
- (7) 英文等の抄録を掲載する場合には、脚注に和文に

よる表題を記す。

4. 要約

要約は和文の場合は200~300文字、英文等の場合は5~10行とし、ローマ字の著者名の下に1行あけて1段組で書く。

要約を英文等で記載するときは、日本語訳を別紙(A4判)に書いて、原稿に添付する。(調査研究報告等の最後に掲載するため)

5. 文体および文字

- (1) 現代かなづかい、新送りがな、常用漢字を使用し、できるだけわかりやすい表現の口語体を用い、横書きとする。漢字、ひらがなは全角のみとする。
- (2) 学術用語は学会の慣例に従う。
- (3) 動・植物名はカタカナ、学名はイタリック体を用いる。
- (4) 本文中では原則として物質名を化学式であらわさない。ただし、反応式であらわす部分は化学式を用いてもよい。
- (5) 物質名は原則として略号は用いないが、記載頻度の多い場合、または、一般に使用されている場合は使用してもよい。略記する場合は、最初に必ず正式な名称と共に記す。
- (6) 人名、地名は原則として原語を用いる。
- (7) みだし、小項目等の番号をつけるときは、原則として次の記載例に従う。

1.1、1.1.1、1.2.1

2.1、2.1.1、2.1.2

6. 区画および行のとりかた

- (1) 本文は白紙(A4判)を用い、1ページ25文字×50行の2段組とする。
- (2) 本文(和文)の句読点は「、」と「。」を用いる。(「,」「.」は用いない)。()「」などはそれぞれ一文字とする。
- (3) 改行毎に1コマあける。
- (4) 英数字は半角とする。
- (5) 大みだし(方法、結果等)は原稿用紙の上下1行ずつあけ、行の中央に書く。中みだしは上1行のみをあけ、小みだしは行をあけずに書く。大、中、小のみだしの文字はすべてゴシック体とする。
- (6) 式は必ず改行して書く。

7. 数字、数式、単位、記号

(1) 数字は原則としてアラビア数字を用いる。

例：図1、表2、3g

(2) 文章中に数式を挿入するときは、 a/b 、 $(a+b)/(c+d)$ とし、文章中でないものは以下のようにあらわす。

$$\frac{a(a+b)}{b(c+d)}$$

(3) 単位は原則としてS I単位を用いる。

(4) 記号は国際的に慣用されているものを用いる。特殊な記号は脚注に説明を加える。

8. 参考文献

(1) 参考文献は、引用箇所の右肩に通し番号を、右側片カッコをつけて小さく書き、本文の末尾に引用番号順に列記する。

(2) 欧文雑誌の略号は、Chemical Abstract, 50(No. 23), 1956による。

(3) 参考文献の句読点は「，」と「．」を用いる。

(4) 原則として著者名は省略しない。

(5) 引用形式は原則として次の要領による。

① 雑誌の場合

著者名、表題、雑誌名、巻数、開始ページ～最終ページ(発行年)の順に記載する。ただし、通巻ページのない場合のみ巻数の後に(号数)を挿入する。雑誌の巻数は太字で記す。なお、共著の場合の著者名は必要に応じて「他、et al.」と記す。
(例)

1) Conden, R., Gorden, AH. and Martin, AP. : termination of cholesterolin lood, Biochem., J, 38, 224~330(1994)

2) 石畝史他：鯖江市A保育園で発生したShigella sonneiによる集団感染事例，福井県衛生研究所年報，第40集，43~47(2001)

3) 小林義隆，白井正：PCBの代謝に関する研究，食品化学，19, 215~221(1970)

② 図書の場合

著者名、図書名、版数または巻数、ページ数、発行所、発行地(発行年)の順に記載する。

図書中の特定部分を引用したときは、その引用した箇所のページ数を記入するが、全体を引用したときはページ数を記入しない。

(例)

1) 赤堀四郎：アミノ酸及び蛋白質，p. 158，共立出版，東京(1964)

2) Kiver, M.S. : Color Television Fundamentals,

McGraw Hil Book Co., New York(1964)

③ 双書、シリーズものなどの場合

著者名、一部分の表題図書名(編者名)、版または巻数、開始ページ～最終ページ、発行所、発行地(発行年)の順に記載する。

(例)

1) 佐橋佳一，森高次郎：生体成分，生化学講座(赤堀四郎ほか)，2, 1~10，共立出版，東京(1958)

2) Brown G.B., Roll P.M.: The Nucleic Acid (ed. by Chargoff, E, Davidson, J. N) , 2, 341 ~ 351, Academic Press Inc., New York(1955)

④ 講演の場合

(例)

1) Bonner. D.M. : 第6回核酸シンポジウム要旨集(大阪, 1956)

9. 謝辞、その他

(1) 謝辞は参考文献の前に上1行あけ、1コマあけて書く。

(2) 学会発表、資金補助等は参考文献の前に記す。

10. 図、表、写真

(1) 図、表はそれぞれ一連番号をつけ、本文中の引用は番号による。

(2) 図、表は図1、表1などとする。

(3) 写真は図と同じに扱う。印刷物からの複写はしない。カラーは原則として採用しない。

図は鮮明に描く。要約が英文の場合は図表のタイトルおよび説明を英文で、要約が和文の場合は、図表のタイトルおよび説明を和文または英文のいずれか一方で統一し、図の中央下部に記載する。

(5) 図は原則として、原寸または掲載図版の2倍に描き、縮尺率を記入する。

(6) 図、表の刷り上がりの大きさは原則として左右は最大8.5cm(2段組)または17cm(1段組)(いずれも図中の説明文字を含めた大きさ)の2種類とする。

(7) 表は別紙に書き、タテ、ヨコの長さを指定する。ヨコの長さは図の場合と同様である。タイトルおよび説明は表の左側上部に記載する。

(8) 挿入箇所に図、表の番号を指定する。

(9) 構造式の複雑なものは、図と同様にそのまま縮尺できるように書く。

(10) 図、表、写真の片すみに著者名、題名、図表番号を鉛筆で記入する。

11. 校正

(1) 校正は著者が行い、所報委員が確認する。

(2) 校正段階での原稿訂正、内容の増加、行数の増加

等は原則として認めない。

12. その他

- (1) 原稿は刷り上がりの配列を考慮し適切な縮尺比の図、表、写真を貼り付けたものを提出するとともに、Wordで作成した本文の電子ファイルも提出する。
- (2) 原稿の表はExcelで作成し、印刷した表(タテ、ヨコの長さを指定)とともに電子ファイルも提出する。